



若者の参加推進のための アジア国会議員と若者の 世代間対話



2021年7月8日





「若者の参加推進のためのアジア国会議員と若者の世代間対話」は、若者の有意義な参加を実現するプラットフォームを構築・強化し、彼らの声を国家政策に反映することを目的に開催されました。7月5日に実施された若者ネットワークの準備会合を踏まえ、7月8日の世代間対話には、アジア太平洋地域23カ国から100名以上がオンラインで参加し、提言をまとめました。

世代間対話と準備会合の目的は、以下の通り。

- ✔ 若者の有意義な参加への理解を共有する。
- ✔ 平常時またはコロナ禍を問わず、オンライン・オフラインでの若者の有意義な参加の優良例や各種手法を共有する。
- ✔ 若者の参加を阻害している課題を特定し、その課題を解消するためのアイデアについて意見交換を行う
- ✔ 各国の国会議員／人口・開発国内委員会 (NC)、市民社会団体 (CSO)、若者の間にパートナーシップを形成・促進し、若者の有意義な参加とその手法を模索する。

本事業は、アジア人口・開発協会 (APDA) の主催、国連人口基金 (UNFPA) アジア太平洋地域事務所 (APRO) の後援、Y-PEERアジア太平洋センターの協力により実施されました。







主催者挨拶 [要旨]

黄川田仁志 衆議院議員／JPFP事務総長(日本)

今回のオンライン会合は、若者のニーズや感性を政策に反映させるために、国会議員が若者の意見を聞き取る機会として設けられました。人口問題に取り組むことは社会にとって決定的に重要なことであり、望まない妊娠を防ぐことは人口問題の要となります。というのも、意図しない妊娠は、ほぼあらゆる社会的側面に悪影響を及ぼすためです。新型コロナのパンデミックにより、SRHを含む保健医療サービスの利用に関して、格差や課題が浮き彫りになり、各国は若者のニーズに十分に対応できていません。UNFPA APROの支援に感謝するとともに、今回の対話が、より良い未来の構築に向けて、世代間の溝を埋め、共通の目標を掲げ、若者のニーズを取り入れるプラットフォームとなることを祈念します。



後援機関挨拶 [要旨]

ビヨン・アンダーソン UNFPA APRO地域事務所長

若者は、多種多様な課題やニーズを抱える多彩な人口の集団であり、彼らの様々な課題やニーズに対応するには、彼らとのパートナーシップが不可欠です。ゆえに、最も貧しく、社会的に疎外された若者の参画が重要です。また、計画の設計、立案、実施、評価に至るまで、介入のあらゆる段階で若者の参加を確保しなければなりません。若者とパートナーシップを組み、そして若者が有意義な形で参加することは、ICPD行動計画の実現、ひいては、持続可能な開発のための2030アジェンダの達成につながります。若者は受益者としてではなく、パートナーとして、計画の要です。だからこそ、UNFPAは、国や地域の若者ネットワーク、そして若者のリーダーシップや参加を体系的に強化することに力を注いできました。新型コロナのパンデミックに際し、若者たちは、医療従事者、啓発推進者、ボランティア、科学者、社会起業家、革新者として危機に対応している一方、若者の参加を妨げる構造的な障壁があり、その結果、若者の視点に対する信頼が損なわれています。

アイリス・パイ氏 (中国)

パイ氏は、以下のブータンの若者の言葉を引用し、読み上げました。

「若いリーダーをエンパワーし、意思決定、政策立案、法制定に参加させることが必要である。年長者が、若者との信頼醸成に投資をすれば、その信頼はよりいっそう強化されて返ってくることでしょう。」



イントロダクション

アシュウィニ・ラマ氏／Y-PEER (ブータン)

ラマ氏は、まずセッションと、それぞれの目的について説明を行いました。一つには、若者の有意義な参加についての共通理解を図り、若者の有意義な参加のための手法の実例や、若者の参加が不十分な現状とその課題についても共有すること。また、参加者たちがこの問題解決のためのアイデアについて意見交換を行い、各国の国会議員、各国人口開発国内委員会 (NC)、市民社会組織 (CSO)、若者たちの間でパートナーシップを形成・促進することを目的としています。

Session 1:

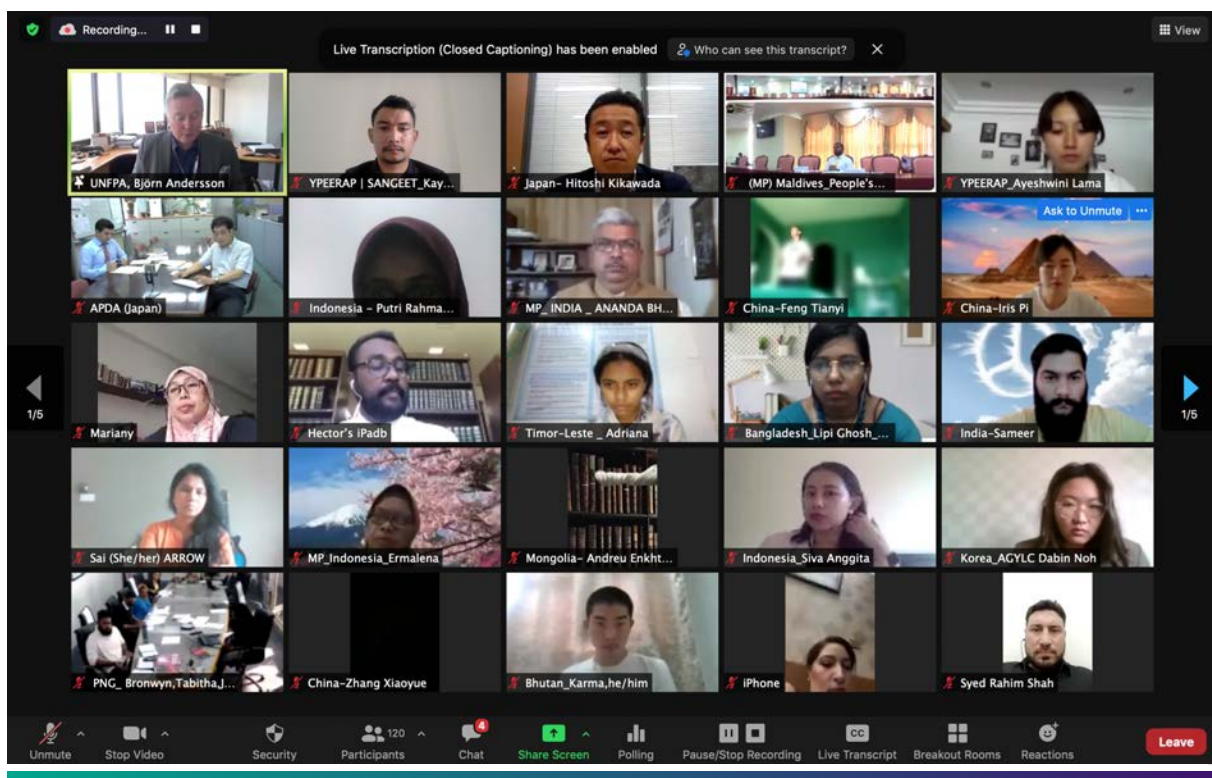


アジア太平洋地域における若者の有意義な参加とその手法

本セッションは、アシュウィニ・ラマ氏がモデレーターを務め、(1) 若者の有意義な参加の原則、(2) 若者ネットワークの準備会合から得られたフィードバック、(3) 地域レベルでの若者の有意義な参加の例、の3つのテーマについて意見交換が行われました。

「有意義な参加」の定義は以下の通り。

思春期及び青年期の若者の有意義な参加とは、思春期及び青年期の若者と年長者との間の包括的、意図的かつ相互に尊重し合うパートナーシップが実現できることである。その際、若者の持つ能力が活用され、その貢献が評価され、彼らの生活やコミュニティ、国、世界に影響を与えるプログラム、戦略、政策、資金調達メカニズム、組織実行のための計画・実施に、若者のアイデアや視点、スキル、強みが統合されることである。





シトゥ・シュレスタ氏 (ネパール)

若者の参加のメカニズムの例として、スリランカとパプアニューギニアには、全国青年議会があり、ネパールには青年評議会があります。カンボジア、モンゴル、ベトナム、バングラデシュには、ユース・アドバイザー・グループ、ラオスには若者のリファレンス・グループがあり、その他にも非公式のメカニズムがあります。

世代間対話について行われた小規模調査では、50%以上の若者回答者が「その種類を問わず、協議や対話に一切参加していない」と答えました。若者の有意義な参加について、以下の10のギャップが指摘されています。

1. 包括性（インクルージョン）または適切なプラットフォームの欠如
2. 当事者間のコミュニケーションが非効率的で限定的であること
3. 若者の目的、参加、関心の欠如
4. メンタルヘルスの問題
5. 若者の能力育成の機会が十分でないこと
6. 若者と年長者の相互信頼の欠如
7. 地理的、社会経済的、文化的、及び政治的、並びにジェンダーによる障壁
8. 若者向けリソースの不足
9. 時間管理の問題
10. 教育の欠如・失業の問題



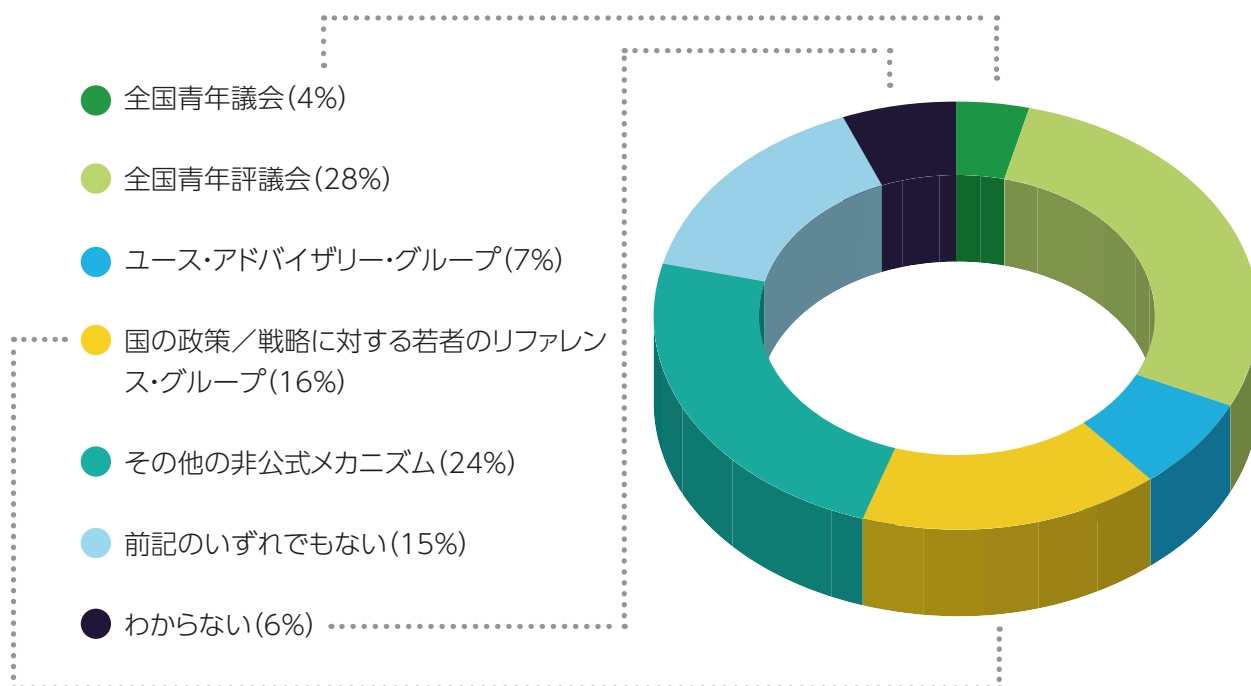
サンギート・カスタ氏／Y-PEER (ネパール)

アジア太平洋地域は、他の地域よりも若者の数が多く、若者が有意義に参加するための既存のメカニズムが存在します。こうしたメカニズムにはいくつかのレベルがあり、その1つは若者が政府、CSOパートナー、国連機関と直接関わることができるものです。他にも、若者が政策立案者と交流するために自分たちで作ったプラットフォームの例や、SRHRなどの問題について連携するプラットフォームの例もあります。一方で、埋めなければならないギャップも確かに存在します。

モデレーター

アシュウィニ・ラマ氏／Y-PEER (ブータン)

ラマ氏は参加者の発表に謝意を表し、参加者に向けて「自国ではどのプラットフォームが最も機能するか」についてポップアップ式投票を行いました。投票結果は以下の通り。



「国会議員と若者の間で意見交換を定期的に行うことで、効果的な法制定と、次世代の意識向上を推進できます」

－ 国会議員

Session 2:



教訓、課題、課題解決のための戦略アクション (パネルディスカッション)

モデレーター

アシュウィニ・ラマ氏／Y-PEER (ブータン)



ロミーナ・クーシード・アラム議員 (パキスタン)

パキスタンの若者が有意義に社会参加するということに関して言えば、政策立案者と若者の間には大きな隔たりがありますが、国会は大学生を自国の各種インターンシッププログラムに参加する機会を提供し、また若者や若手国会議員を招いて、政策や法律の改正について議論するフォーラムを設けています。今回の対話は、各国がお互いに学び合う良い機会です。私自身は、メンタルヘルス、薬物、暴力などの社会問題、特にコロナ禍に対処すべき社会問題について非常に懸念しています。



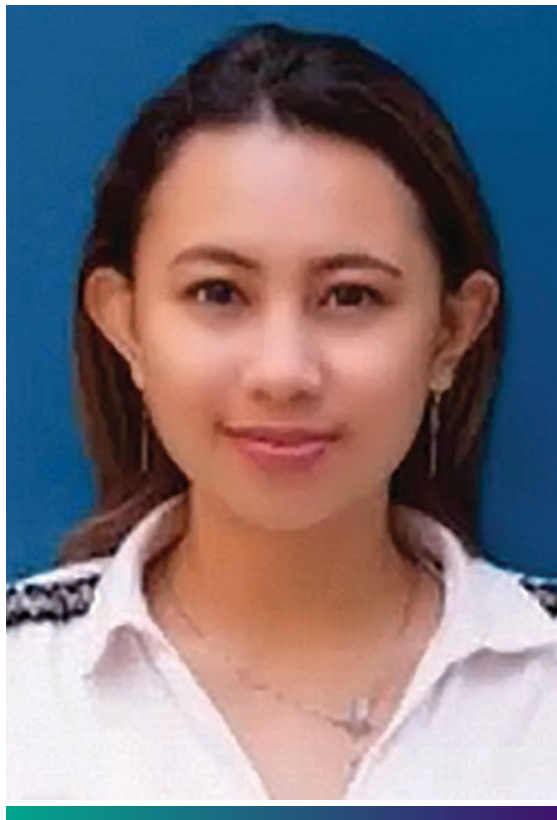
ラム・デュリップ氏／Me for Myself (スリランカ)

自国スリランカの成功例として、若い世代がソーシャルメディアを使って、関連当局や政策立案者と、直接かつ率直に話し合えるようになったことが挙げられます。これは、政府や国会議員が問題を認識することにつながりました。新型コロナウイルスのパンデミックによって、社会経済的な打撃を最も受けているのは若者ですが、同時に最も積極的に事態に対応しているのも若者です。若者は、医療従事者として最前線にだけでなく、研究者、活動家、革新者、メディアとしても自らの役割を果たし、健康と安全を推進しました。より健康で安全な世界へ向けて、解決策に若者の声が確実に反映されれば社会にとって有益だと思います。



ヘクター・アプハミー議員 (スリランカ)

労働力人口に占める若者の割合は、約20%に過ぎませんが、若者は新しいアイデアやイノベーション（革新）という面で非常に独創性に富んでいることが証明されています。各国は、この革新力を活用して、さらに高い経済成長の実現を目指すべきです。若者が自分たちのビジョンを明確に提示し、政治の場に参加することは非常に重要です。スリランカには青年議会がありますが、この青年議会は将来に向けて重要な役割を担っています。



シバ・アングータ氏 (インドネシア)

若者の有意義な参加を阻害する主な原因として、世代間格差、知識格差、経済的格差の3種類のギャップ (格差) があります。インドネシアでは、政府が国家戦略計画への若者の参加を奨励しています。またWHOも若者の参加を奨励しており、この2つは成功事例となる可能性を秘めています。一方で政府には、訓練や育成を行い、若者のスキルを伸ばすよう尽力して欲しいと思います。経済的格差という点では、国や地方が若者主導のプロジェクトに資金を提供する必要があります。政治参加については、国会議員になる若者が特権的家の出身であることは周知の事実であり、あらゆる若者が参加できる政治制度を作ることが重要です。

「この会議は、単に枠組みを示すだけでなく、開発プログラムに若い世代が参画するためにはどのようなアプローチを取るべきか、他の国の経験を共有する場でもある」

－国内委員会代表



サラ・エラゴ議員 (フィリピン)

コロナ禍で若者の参加を維持するためには、デジタル格差を極力なくすることが重要です。インターネット接続と技術の進歩により、人々はコロナ禍でも仕事を続けることができるようになりました。その一方で、デジタル監視やプライバシーの問題など、より広範な問題も多数生じました。若者主導で、素晴らしい取り組みも広がりました。パンデミックによって多くの人々が仕事や生活の糧を失い、飢餓や貧困が悪化し、それに対処するために設置された「コミュニティキッチン」は、そうした取り組みの代表例です。また、フィリピンでは、学校が安全に再開されるまでの間、オンライン教育の支援を目的として、学びたい人のためのコミュニティ学習スペースを設ける全国キャンペーンが展開されました。過去と決別し、これからは国会議員や政策立案者に若者との協力を呼びかけることが重要です。また、そのためには透明性と説明責任も必要です。先月、ジェンダーに基づく暴力 (GBV)、並びにオンラインでの性的虐待・搾取への対処が、フィリピン議会の優先議題として取り上げられ、とても嬉しく思います。



フラ・シェルパ氏 (ネパール)

SDGsを重視し、取り組むことは非常に重要であり、社会や国をより良くするために、政策立案者や国会議員は若者と効力する必要があります。さらに、LGBTI+コミュニティと障がい者に対する保健、学習の機会均等、情報提供の課題に優先的に取り組む必要があります。

「この会議に非常に満足しているが、強いて言うなら時間が足りない。若者たちには、私たち大人の発表や発言に対し、臆することなくコメントしてもらいたい」

— 元国会議員

Session 3:



世代間対話の継続と次のステップ (グループディスカッション)

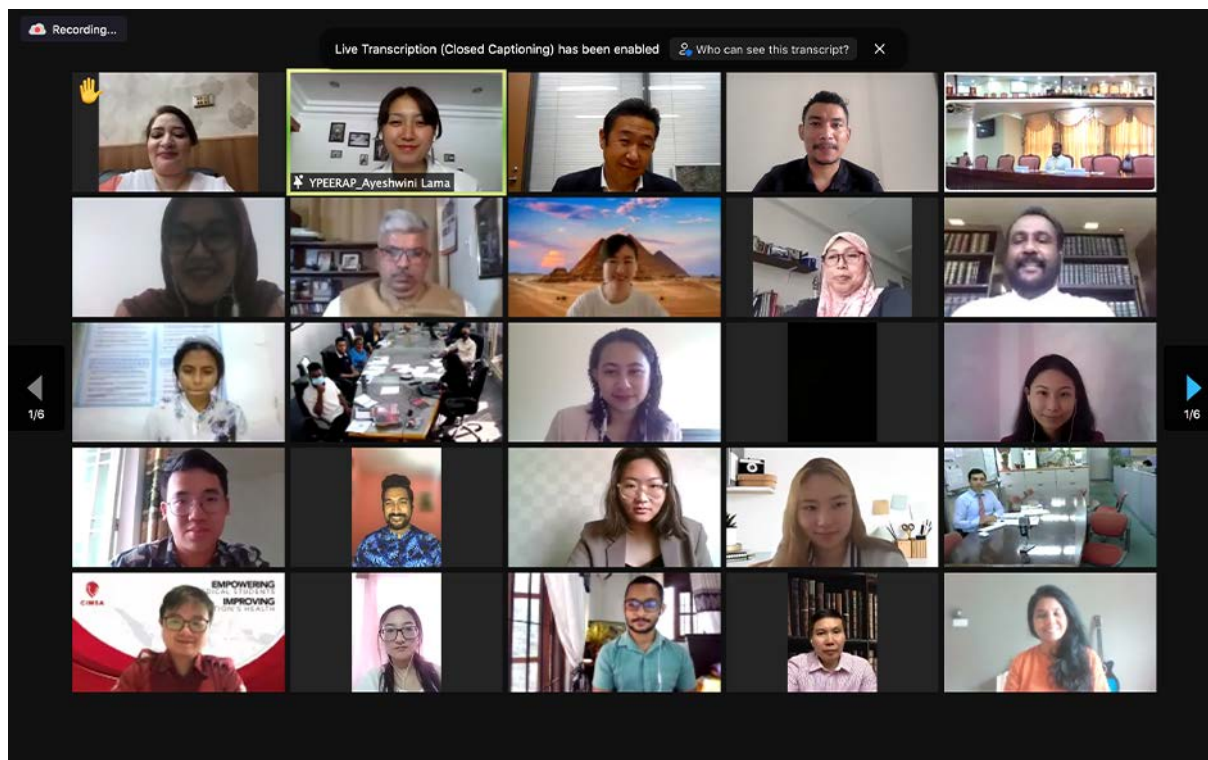
参加者は、国別または合同グループに分かれ、以下の問題について意見交換を行いました。

1. 自国で若者の有意義な参加を強化するには、どのような協力方法があるか？
2. 若者の参加に関連する地方・国レベルの政策はあるか？
3. 自国には、若者の視点や国際的政策を反映するフィードバックの仕組みはあるか？
4. 合同グループに向けた質問として、地域レベルのフォローアップ活動について何かアイデアはあるか？ 実践と教訓について情報交換を続けるにはどうしたらよいか？

グループディスカッションリーダー (敬称略)

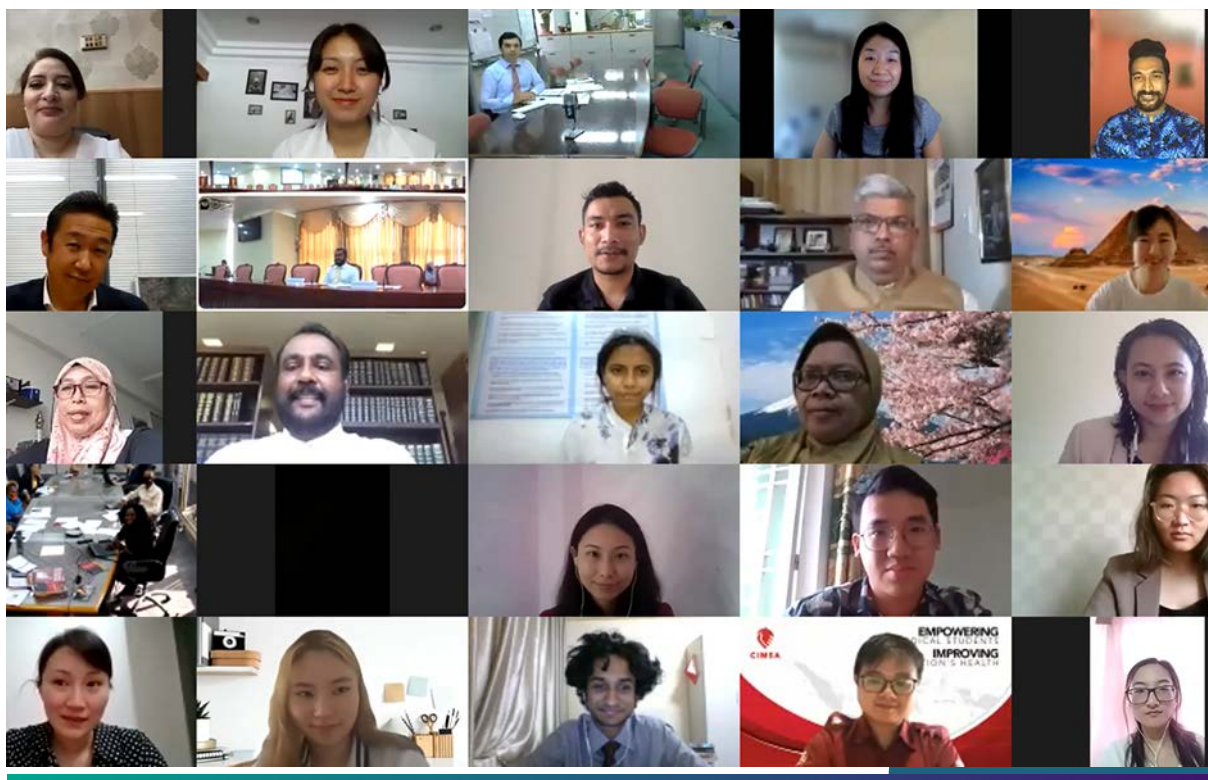
サミール・クマール・ポール、リピ・ゴーシュ、アイリス・パイ、クエンザン・デマ・ノルブ、ペマ・チョデン・ドルジ、カルマ・センゲ・プンツォ、シトウ・シュレスタ、フラ・ゲッツェン・シェルパ、マリア・イクバル・シャー、マリアム・グラミ、ローズマリー・パウイ、ラム・デュリップ、アレクサンダー・バーナル

Thank You!



「素晴らしい会議だった。多くの学びがあり、若者の声の率直な意見を聞いたのは、とても貴重な経験だった」

－ 国内委員会代表



グループディスカッション報告

2つのグループがディスカッションの報告を行いました。まず、スリランカ国グループは、LGBTI+コミュニティのような一部のグループが除外されていることなど、基本的な課題を明らかにするとともに、政治的な立場とは関係なく、すべての若者が青年評議会をもっと容易に利用できるようにしたいと発表しました。また、若者に関する法律が制定される際に若者のグループに対して、何らの協議がないことについての懸念を表明しました。

次に、アフガニスタン、パプアニューギニア (PNG)、バヌアツ、フィジー、ラオス、マレーシア、日本で構成されている合同グループAが報告を行いました。グループAは、マレーシアでは、青少年育成政策がありますが、社会的に疎外された層の若者の参画が欠落していると指摘し、またパプアニューギニアでは新しい若者政策についての協議が進行中であると発表しました。また課題として、青年評議会に若者の代表が不足していること、マレーシアでは予算審議に参加できる仕組みはありますが、その数が限られていることを報告しました。

コメント

マリアニー・モハマド・イット元国会議員 (マレーシア)

マレーシアには国家若者政策はあるものの、その成否を評価するデータがありません。そのため、若者の参加に政府が真剣に取り組んでいるかどうか判断できません。

モハメド・アリ議員 (モルディブ)

新型コロナによるパンデミックは、若者に悪影響を及ぼし、多くの若者の事業が倒産しました。若者のビジネスの支援を目的として「全国復旧パッケージ」がまとめられ、国内に広がっています。政策があっても、その政策が実際に若者の参加の推進に有効かどうかは判然とせず、その点を懸念しています。

エルマレナ・ムスリム・ハスブラ議員 (インドネシア)

今回のようなフォーラムは高く評価されるべきです。若者の有意義な参加は、エンパワーメントと啓発への重要な道筋です。



Session 4:

総括と次のステップ： 具体的な行動計画採択に向けた討議

若者ネットワークの準備会合でドラフトされた提言が提示され、参加者からのコメントやアイディアは、議論の上で盛り込まれました。（「**最終提言**」を参照。）

コメント

アナンド・バスカル・ラポール議員（インド）

今回の世代間対話は私に希望を与えてくれました。新型コロナのパンデミックでは、身体的な距離をとることだけでなく、先進的な技術を取り入れることも学びました。この時期だからこそ、新たな対話の道を探ることができました。また今回の対話は、国会議員として若者の見解や思いを学ぶことができ、有益でした。提言にあるような若者の政治的エンパワーメントの強化について国会議員が責任をもって尽力することを約束します。

閉会

進行を務めたファル・ウスモノフAPDA国際課長補佐が、参加者の貢献に感謝の意を表し、この対話が今後とも続いていくことを祈念し、会議を締めくくりました。

「それぞれ異なる革新的な考えを持つ若者と、こうして経験を共有できる場は重要である」

— 国会議員

提 言

1. 実現を可能にする政治的枠組み

- ・ 政府と若者との連携と対話の促進。
 - ・ 青年議会の設立。
 - ・ 若者の政治的エンパワーメントの強化。
 - ・ 中央・地方レベルにおける若者主導の委員会を通じた若者の政治参加。
 - ・ 若者に影響を与える潜在的な問題の解決に向けた法改正。
-

2. ニーズに応じた改革

- ・ 若者の新たな課題や関心事、希望に合わせた若者向けの政策の見直し・変更。
 - ・ 若者の参加に関する学校での公式・非公式教育の促進。
 - ・ 若者が将来の雇用や、より広い社会的・政治的な役割に備えるためのスキルの習得を、学校のカリキュラムに盛り込む。
 - ・ 若者に配慮した資金調達政策と法制度の推進。
 - ・ 社会的に疎外された弱い立場の若者を含め、あらゆる形の若者の声を、インターネット等を使って取り込む。
 - ・ 「若者・平和・安全保障」(YPS) アジェンダに関する各国政府のコミットメントを毎年見直し、進捗状況報告を共有する。
-

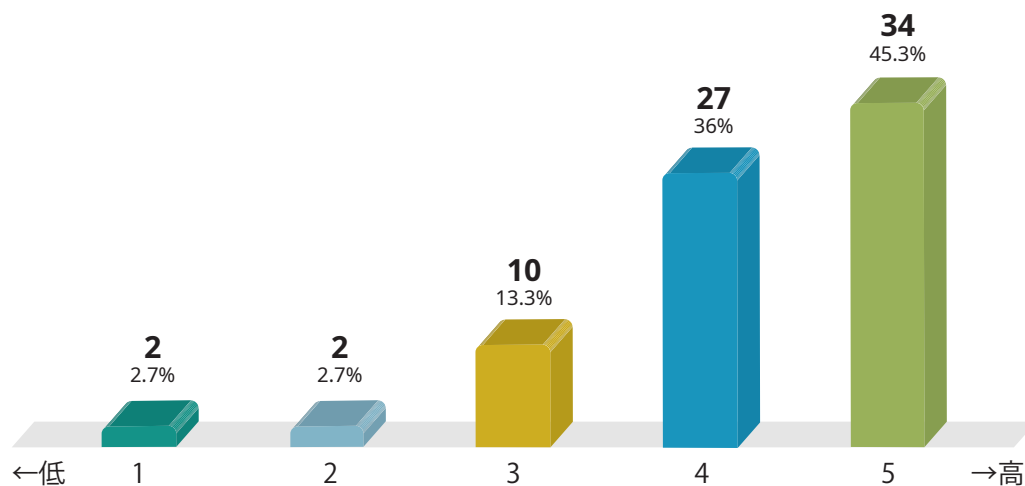
3. 社会的包摂（インクルーシブネス）

- ・ 若者を意思決定の監視プロセスに取り込み、若者をYPSアジェンダなどのグローバルな公約実施のパートナーとする。
- ・ 社会的に疎外された若者層（LGBTQ、障がい者など）の参画を進める。
- ・ 若者のために機能するプラットフォームを構築／強化する。
- ・ 若者の権利に関する啓発活動や、行動を促すためのプロジェクトへの若者の参画を実現する。

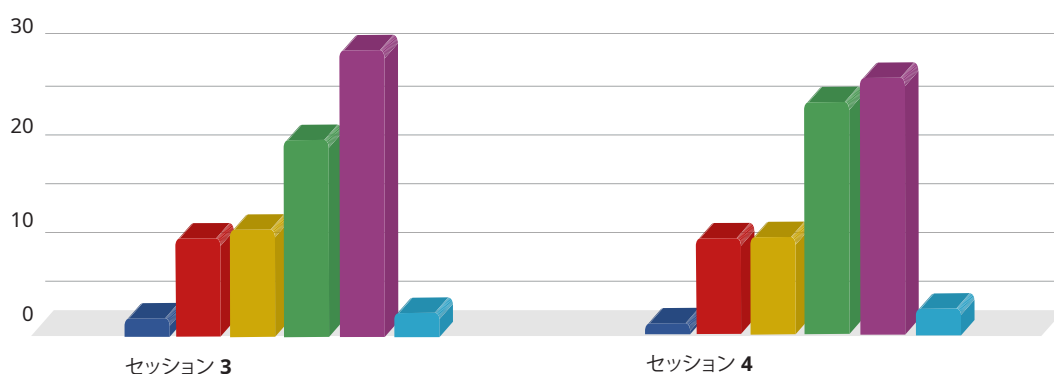
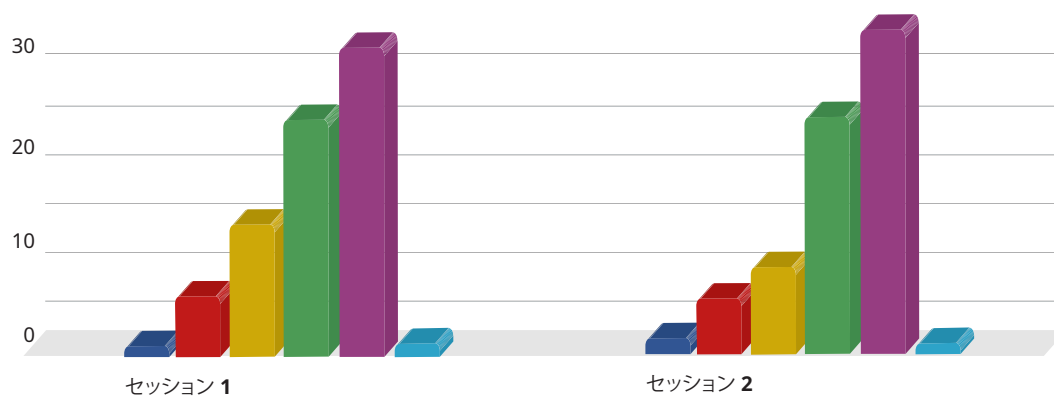
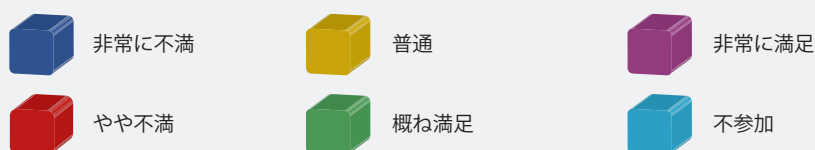
アンケート結果

全体の満足度

回答数:75



セッション別満足度

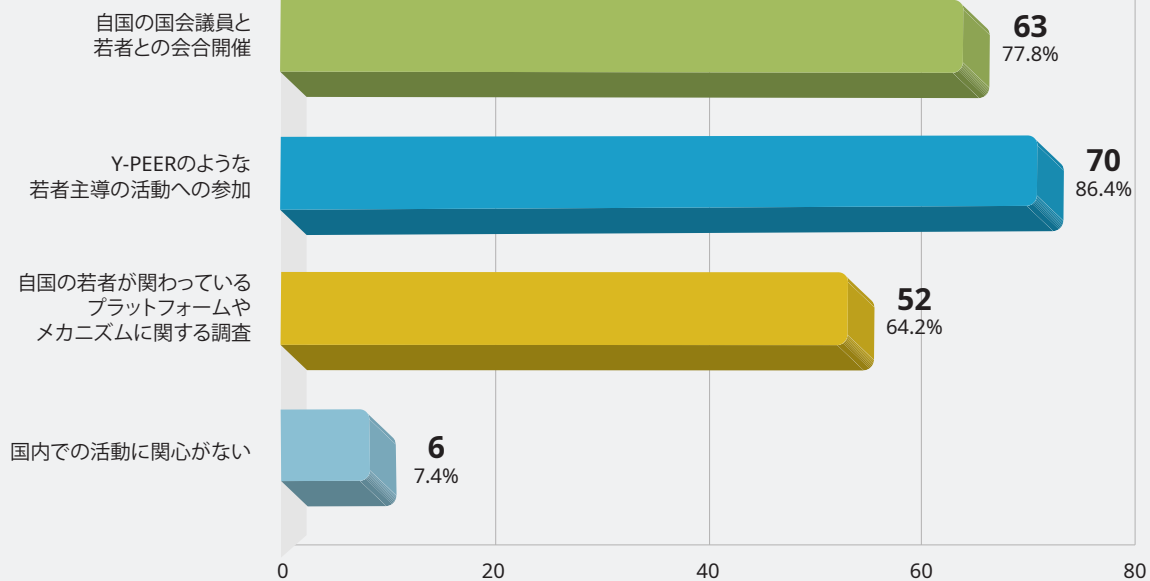


今後の活動

国内における活動

今後、自国でどのような活動を考えていますか。(複数回答可)

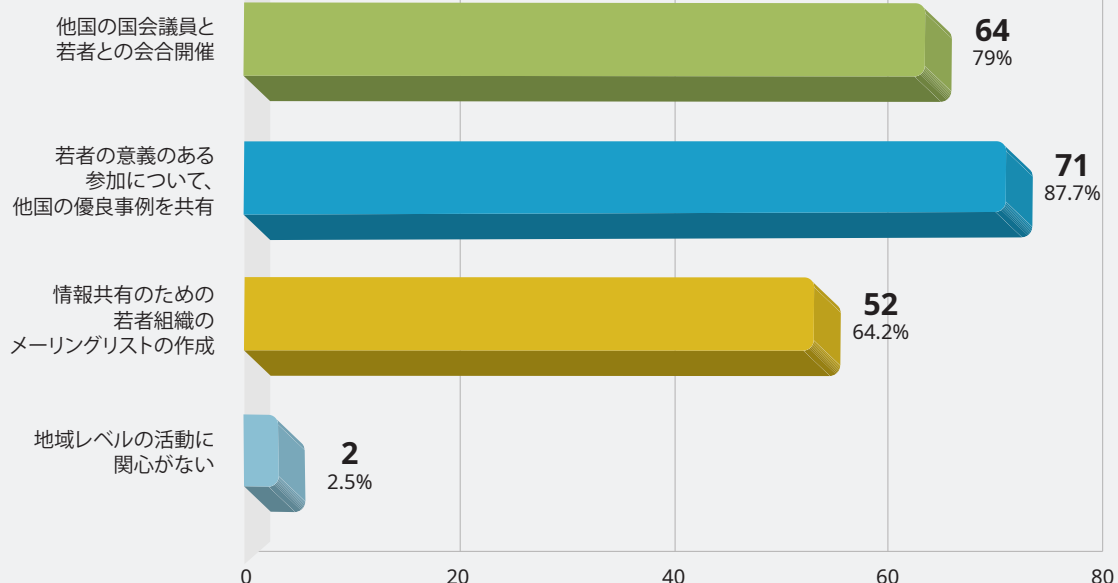
回答数: 81



地域における活動

今後、アジア太平洋地域でどのような活動を考えていますか。(複数回答可)

回答数: 81





プログラム

(Tokyo time)	Agenda	Speaker
15:00-15:15	Opening and welcome	APDA
	Address by Organizer APDA/JFPF, Japan (5 min)	Hon. Hitoshi Kikawada, MP Japan, Secretary- General of JFPF
	Address by Supporting Partner - UNFPA (5 min)	Mr. Björn Andersso, Regional Director of UNFPA APRO
	Introduction	APDA, Ms. Ayeshwini Lama, Y-PEER
15:15-15:40	Session 1: Meaningful youth engagement and its modalities in the Asia-Pacific region	Ms. Ayeshwini Lama, Y-PEER
	1. Principles of meaningful youth engagement (5 min) 2. Feedback from youth consultation (15 min) 3. Examples of meaningful youth engagement at a regional level (5 min)	
15:40-16:10	Session 2: Lessons learned, gaps, and strategies actions to address these gaps (Panel Discussion)	Ms. Ayeshwini Lama, Y-PEER
	Tentative questions: ▪ Please share a concrete example where young people are meaningfully engaged in your country ▪ What are lessons learned from the examples through your efforts in your country? What were keys to success? ▪ Is there anything new you learned today? How can you apply them to your contexts? ▪ How did you manage to maintain youth engagement in the COVID context? ▪ What are some major gaps in your context? What are your roles in addressing these gaps?	Panel speakers ▪ 3 parliamentarians ▪ 3 youth advocates
16:10-16:55	Session 3: Opportunities for continued dialogue and next steps	MP facilitator
	Questions to be discussed in each group (Tentative) ▪ What are gaps that need to be addressed in your country? (In terms of inclusiveness of diverse groups, mechanisms, level of engagement, capacities etc.)	

	▪ What are the next steps to address these gaps in your country? How can you work together to strengthen meaningful youth engagement in your country? ▪ Are there policies related to youth engagement at the local or national levels? ▪ Does your country have any feedback mechanisms to reflect youth perspectives into national policies / strategies? ▪ What are your ideas for Asia-Pacific regional-level follow-up activities? / How can we continue exchanging good practices and lessons learned?	
	Report back by a member of selected groups	
16:55-17:15	Session 4: Wrap up and next steps	Facilitator
	Discussion and Adoption of Concrete Action Points / Next steps for the group	▪ APDA rapporteur ▪ Youth Representative
	Closing	

主催

アジア人口・開発協会 (APDA)



後援・協力

国連人口基金 (UNFPA)



Y-PEER アジア太平洋センター





APDA

The Asian Population and Development Association

www.apda.jp

